

～タブマネってこんな人～

①京丹後市国際交流協会 麻田友子さん

私は、平成 20 年 3 月に設立された、京丹後市国際交流協会の事務局として就任しました。京都府の日本海側の雪国で、外国人も少ない地域ですが、市役所の中に机 1 つをいただき、国際交流協会の活動をしています。

平成 21 年に日本語教室を立ち上げ、外国人市民の窓口となり、様々な課題や外国人を取り巻く状況を目の当たりにし、施策や事例を学びたいと思っていたところ、京都府内には、心強いタブマネの先輩方が多く、タブマネ研修を受けたいよ！と後押しをいただき、平成 24 年度に「多文化共生マネージャー養成講座」を受講しました。

豪華な講師陣、情熱溢れる同期に囲まれた刺激的な 10 日間で、新しく多文化共生推進の取組みを始めるエネルギーを私の中に蓄積しました。

ただ、その当時は、こんな地方の外国人散在地域である京丹後市で、多文化共生推進プランが策定できるとは思っていませんでした。

京丹後市に住む外国人の多くが女性です。子どもを育て、働き、地域の中で暮らしています。「外国人＝弱者」というイメージや「多文化共生＝外国人支援」ととらえられがちなため、本市のような外国人市民数が少ないまちでは多文化共生の理念や必要性が理解してもらえるのか不安を感じていました。こんな中、平成 24 年 9 月に市内で初めて「多文化共生研修会」を“支援”ではなく“共に作る”というテーマで開催しました。

この取組みで、多文化共生の考え方について、当協会関係者や市担当課の理解を得ることができたと思っています。

平成 27 年 3 月に、「京丹後市多文化共生推進プラン」が策定されました。タブマネ研修の際に、自ら掲げた 3 か年計画では、本市でここまで多文化共生が進むとは考えていなかったので嬉しい結果となりました。

現在、多くのタブマネ先輩方、また同期の皆さんのお力をいただき、第 2 次プランの策定に向けて佳境を迎えているところです。

小さい市で弱小の事務局体制ですが、(公財)西宮市国際交流協会さん、NPO 安芸高田市国際交流協会さんとはタブマネのご縁で、“多市広域パートナーシップ協定”を締結させていただき、防災や多文化共生などについて日常的に連携を図り、お互いの訓練などにも参加させていただいております。

これからも、多様な背景を持つ人が活躍でき、日本人や外国人など関係なくお互いに住みやすい地域となるように、多文化共生マネージャーとして、力を尽くして行きたいと思っています。

②世田谷区政策経営部広報広聴課 長倉美紀さん

多文化共生マネージャー22期の長倉です。今年3月まで、東京都世田谷区生活文化部国際課で、主に多文化共生事業を担当していました。

世田谷区は、総人口が約90万人（東京23区で1番）、外国人人口は約2万人、区の総人口との比率で見ると、約2.2%の自治体です。

私がタブマネ研修を受けた理由は、担当分野のプロとして、学びが必要だと思ったからです。この研修を受講したことで、たくさんの気づきを得られました。

まず、研修は標準語で行われるものだという先入観を壊すところから始まり（笑）、外国人と括られた人たちはどういう現実社会で生活をしているのかなど、良い意味で客観的に学ぶことができました。また、大人になってからはあまり体験することのない、10日間の合宿のような環境の中で培った同期の仲間との絆は、今でも色々な形で力になってくれています。

4月から多文化共生を外側から見守る立場になり、改めて思うのが、「外国人」という言葉のように、誰が作ったのか分からないような「基準」に捉われず、一人一人が自分を信頼して豊かに暮らせる社会にしたいということです。私は、この社会の可能性は、多文化を構成する人々に凝縮されている気がしています。

今、改めて多文化共生という考え方と向き合いながら、まちづくりに関わっていきたいと思っています。

最後に、世田谷区のチャレンジを信頼し、力強く支えてくださっている明治大学の山脇先生、地域で多文化共生をサポートしている皆様、また、タブマネ22期を育ててくださった皆様、22期の仲間、それから国際課を立ち上げたチームに感謝します。

世田谷区が多文化共生施策については、ホームページをご覧ください。

URL：<http://www.city.setagaya.lg.jp/soshiki/0930/7513/index.html>

③滋賀県南部健康福祉事務所 筈井淳平さん

私は滋賀県庁で行政職員として働いています。元々は民間でIT・広報関係の仕事に携わっていたのですが、平成27年4月に入庁、平成30年3月まで国際室に所属し、多文化共生施策を担当していました。この4月に異動となり、いまは保健所で医療福祉連携の担当をしています。国際室にいた3年間で自分が大切にしたのは、多文化共生という言葉や意味を知らない人たちも多文化共生の主体になれるような仕掛けづくりでした。自分も行政職員である以上、数年後には異動になります。自分が異動になっても多くの方が多文化共生の地域づくりに結果的にコミットできている、その状態が理想だと考えました。

県内の起業支援団体と「社会起業」というテーマで2泊3日の起業イベントを開催して実際にサービスが立ち上がったり、翻訳・多言語対応の意見交換の場づくりから、様々な分野の実務者どうしの交流が生まれたり。多くの空振りもありましたが、めげずにトライをし続けることで、広域行政ならではの新たな「つながり」を、自分なりにつくることのできたのかなと思います。

こういうトライをし続けられたのも、入庁（配属）時に受講した「多文化共生マネージャー」の研修プログラムが大きかったのかなと思います。滋賀県庁では、多文化共生係に配属された行政職員は原則このプログラムを受講することとなっているのですが、入庁して間もない自分にとっては、多文化共生にまつわる諸論点を短期集中的に学ぶよい機会でしたし、何よりここで一緒に学んだ仲間ができたことが、その後のいろいろな取り組みの基礎・支えになっていたと思います。

いまは国際室を離れて異なる部署にいますが、そもそも多文化共生の地域づくりとは、国際というテーマに限らず、福祉やジェンダー、働きかたなど、「多様な価値観の受容」という観点で本来誰しもが共有しあえるテーマです。

今の所属でも多文化共生マネージャーとして、これまで学んできたことを仕事に活かしていくことで、多文化共生の裾野が広がっていくといいなと考えています。

滋賀県の多文化共生施策については、以下 URL からご確認ください。

<http://www.pref.shiga.lg.jp/b/kokusai/tabunka/plan/tabunkaplan.html>